

JSPS 中国同窓会江蘇支部会を開催

2020年11月21日（土）、南京大学外国語学院主催、JSPS中国同窓会江蘇支部等関連機関共催の『日本文学における都市描写』学術シンポジウムが南京大学国際会議センターにおいて成功裏に開催されました。

南京大学外国語学院の何寧院長は開会の挨拶で、ユネスコが2019年10月31日の「世界都市デー」に、66の都市がユネスコの『創造都市ネットワーク』に加入すると正式発表した旨を紹介しました。この際、南京は『文学の都』として加入し、中国で初めてこの称号を得た都市となりました。今回のシンポジウムは、南京の『文学の都』としての学術的地位と社会的価値をさらに向上させることを目的としています。開会式後のハイエンドフォーラムでは、復旦大学の李征教授ら4人の大学研究者が基調講演を行いました。約60名がこの会議に参加し、会場は終始満席で、文化的な雰囲気の中で激しい学術討論が行われました。また、JSPS北京研



究連絡センターの廣田薫センター長は、日本からビデオメッセージによる挨拶を行いました。JSPSの事業説明会は、午後の休憩時間を利用し和やかな雰囲気の中で行われました。参加者はJSPSのプロジェクトに高い関心を示し、このようなプロジェクトを広く周知積極的に利用することで、日中学術交流を推進するよう努力すると表明しました。

疫病防止期間中に開催されたこの会議について、江蘇支部会員の劉東波研究員は、会議運営組織を率い、安全・安心の原則に基づく入念な準備と会議関連業務の遂行にご尽力下さいました。この場を借りてお礼申し上げます。

JSPS中国同窓会は、今後も引き続き学術シンポジウムや事業説明会等の各種活動を積極的に行い、日中研究者の学術プラットフォームの構築および共同研究の推進に貢献していきます。



同日には、広島大学北京研究センター主催「第15回日本語作文スピーチコンテスト」も開催されました。同コンテストは、広島大学北京研究センターが、日中交流事業の一環として、2006年から毎年、首都師範大学において開催しているイベントです。今回は、コロナ禍の下、参加者をオンラインで繋ぎ開催されました。当日は、中国各地の大学で日本語を学んでいる学生から応募のあった者のうち、作文審査による予選を経て、優秀賞に選出された5名が日本語スピーチを披露しました。JSPS北京研究連絡センターは、本イベントを後援しました。

進を期待する旨、発言しました。北京大学出版社・杜若明主任から『日本概況』のデジタル化構想が発表されました。中国国家友誼賞受賞者である佐藤教授が、日中両国の更なる友好に自信を見せました。最後に李教授が、『日本概況』をより良いテキストにするため、編集委員一同、全力を尽くす旨、抱負を述べました。

同日には、広島大学北京研究センター主催「第15回日本語作文スピーチコンテスト」も開催されました。同コンテストは、広島大学北京研究センターが、日中交流事業の一環として、2006年から毎年、首都師範大学において開催しているイベントです。今回は、コロナ禍の下、参加者をオンラインで繋ぎ開催されました。当日は、中国各地の大学で日本語を学んでいる学生から応募のあった者のうち、作文審査による予選を経て、優秀賞に選出された5名が日本語スピーチを披露しました。JSPS北京研究連絡センターは、本イベントを後援しました。

広島大学北京研究センターとの共催イベント

2021年3月20日（土）、広島大学北京研究センターと首都師範大学がJSPS北京研究連絡センター、北京大学出版社および陽光学院と共同で、『日本概況』第三版の編集・出版に関する会議をオンラインで開催しました。会場は北京市内の「金竜譚ホテル」で、会場出席者は約50名です。日本側は広島大学とオンラインで繋がりました。

『日本概況』は、北京大学出版社から出版されている日本語科必修科目のテキストで、これまで第一、二版、合わせて5万部が発行され、好評を博してきました。内容は、広島大学の佐藤利行理事（希平会会長）と首都師範大学の李均洋教授によって監修・決定されます。

会議中、中国教育部日本語教学指導委員会主任・修剛教授が、『日本概況』の改訂に際して、理性的、冷静、客観的、全体的に中日関係を認識し、中日友好交流をさらに促進するという期待を寄せました。在中国日本大使館の菅原孝介一等書記官も、本テキストの出版による更なる日中友好促